



4月号

# ステパノだより

No.242

私たち飼育小屋に生後  
1ヵ月でやってきた  
ウコッケイ&アローカナ  
のひなです。  
よろしくお願ひします！



入学・進級おめでとうございます。  
聖ステパノ学園のグラウンドで、皆さんに会え  
るのを待っています。

◎4月の予定 (4月6日現在)  
27日(月)一学期始業礼拝  
28日(火)入学礼拝式(小・中)

今月の聖句  
『主は倒れようとする人をひとりひとり支え  
うずくまっている人を起こしてください。』  
(詩編 第145編14節)



今日は良い日に

学園長 小川 正夫

神様は私に様々な夢を与え、心を動かし、努力するように促してくれます。

神様は決して悪いようにはなさらないと信じて疑わないと、物事に迷いや困難が伴っても不思議に光が差してきて、多くの方々が心を寄せ支援して下さい、大きな力となって夢が現実の姿になります。

そして生きていくことに張り合いが増し、仕事をするのが楽しくなります。

私が欲張りなのかもしれませんが、神様は矢継ぎ早に夢を与えてくれますので終わりがありませんが、一つひとつ解決していくことができるのも不思議に思います。

今日という日が今までの人生最後の日であり、これから迎える人生最初の日という言葉があります、子ども達にとつて毎日が「今日は良い日だった」と思えるように過ごせる環境を用意していきたいと思えます。

そのために、最も身近な人的環境、つまり教職員一人ひとりが教育者としての専門性に磨きをかけるべく学習に勤しみ、子ども達の瞳に憧れと尊敬を受ける支援者と映ることができるよう奨励していきたいと思えます。

教職員すべてが心ひとつにして、どの子ども学校に通うのが楽しいと思う学校、学校に通えない子が、早く学校に通いたくなるような学校を目指してほしいと願っています。

主のみ名によって

事務長 中林 三平

タイトルは日本聖公会の礼拝の最後に皆で唱える言葉です。さあ、これから社会の中で自分の務めを果たす時に、神様のみ旨に適いますようにという祈りの言葉です。

古稀を超えて、隠居したいと思っていた時に、小川先生から事務長就任の依頼を受け、随分迷いました。でも、この聖ステパノ学園が自分が必要としていると信じて、引き受けさせて頂くことにしました。ただ、抜けられない仕事もあり、当分の間は、非常勤という形を取らざるを得ません。皆さまには負担が掛かると思いますがよろしく願います。

自己紹介ですが、出身校は中村弘之先生と同じ自由学園です。野村総研という会社で、人工知能の研究をやっていました。一九八九年に独立して自分の会社を創設し社長業を長く務めました。

さて、抱負ですが、事務局というのは学校の中で裏方です。皆が働きやすく、生徒たちが安心して学校に通えるように環境を整えることが第一の仕事です。二つ目は、大きな借財を抱えた学園の経営を安定させるということです。三つ目は中学校を卒業する子どもたちに、良い教育の場を提供していく方法を考えるということだと思います。課題は多いのですが、神様のみ助けを信じて社会の中に出て行きましょう。

逆転の発想

統括教頭・中学校教頭

佐藤 紀明

大逆転は、起こりうる  
私は、その言葉を信じない  
どうせ奇跡なんて起こらない  
それでも人々は無責任に言うだろう  
小さな者でも大きな相手に立ち向かえ  
誰とも違う発想や工夫を駆使して闘え  
今こそ自分を貫くときだ  
しかし、そんな考え方は馬鹿げている  
勝ち目のない勝負は諦めるのが賢明だ  
私はただ、為す術もなく押し込まれる  
土俵際、もはや絶体絶命 (西武 広告)

そのまま読むとネガティブな文章ですが、広告の最後に「文章を左から右へ、一行ずつ読んでみてください。逆転劇が始まります」とあり、一行ずつ逆さに読んでみると正反対のポジティブな内容が変わって驚きました。昨年度、教育現場から事務長という今までの経験したことのない未知の世界から、違った視点で学校を見ることができました。今まで知らなかったことを知ることができ、気づかなかったことに気づくことができました。ステパノだからこそできた貴重な経験です。この経験を活かし、今までは違った視点で自分に与えられた役割をしっかりと果たしていきたいと思えます。全ては逆転の発想…。物事を前向きに考えていく一年としたいです。

今日を大切に生きる

教諭 赤田 祐章

人は言葉を扱う唯一の動物です。言葉を得たことにより、時間という観念を手にしました。昨日・今日・明日……。言葉が無ければ、生きているのは今しかありません。

さて大学生の頃、「時は流れない。それは積み重なる。」というキャッチコピーに出会い、考えさせられました。コピーライターの秋山晶さんが考えたそうです。それまでの私は、一日ずつを頑張つて生きていたつもりでしたが、何となく目の前のことだけを見ていたように感じます。時が流れていくのであれば、流されている私は、傍観者として眺めるだけで、何かが変わるといふことはありません。しかし今日の私は、昨日までの様々な体験を土台にして生きています。いつまでも完成することなく、生きていく間ずっと、土台の上に体験を積み重ねていきます。やっぱり時は積み重なるものなのです。

今日を大切に生きることは、明日の私を大切にすることです。そして感じ方が違っても、目の前にいる仲間も同じように時を積み重ねています。自分と同じように仲間も、大切にしながら生活することを、一年間伝えて行こうと考えています。

「応援の仕方」を考えてみる

教諭 飯田 幸子

中学校から小学校に異動して二年間を過ごし、今年度は私にとって三度目の中学校での生活が始まるようとしています。

昨年度、卒業礼拝式が行われた日、中学生の卒業文集が担任の先生から私も教員にも手渡され、早速、ページをめくってみると「すべての先生方へのお礼のメッセージ」のページが飛び込んできました。

子ども達一人ひとりから寄せられた私自身への言葉を読んでいくと「これからも頑張ってください」という言葉が目に入りました。私自身は卒業生へのメッセージを書く時、ここ何年間は「いつまでも応援しています。」という言葉で締めくくっていたのですが、その時、遅まきながら気づいたので。

教員生活の最終章に入っている中で、「私が応援している」のではなく、まさに私自身が「頑張ってください。」と子ども達から応援されているという当然のこと……。

自分自身の足りないところを自覚することの多いこの頃ですが、お互いに相手を思いやりながら「がんばって」と、やさしく声かけ合いながら一緒に歩んでいきたいと思えます。どうぞ今年もよろしくお願ひします。



地に足をつける

教諭 飯田 裕美

年齢を重ねても、初めてのことに、私はいつでも緊張があるものです。

昨年度の四月は、副担任という立場にやはり期待と同時に緊張があり、もともとガチガチに凝った肩に力が入ったスタートから、気が付けば、あつと言う間に一年が過ぎました。何とも寂しい終わり方ではありませんが、振り返ると、元気いっぱい、キラキラした目の子どもたちとの毎日は新鮮で楽しく、また、子どもたちの成長を目の前で見ることに大きな喜びを感じた一年でもありました。そんな素晴らしい一年が過ぎせたのも、子どもたちはもちろん、上戸先生を始めとした先生方、温かい目で見守って下さった保護者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

さて、二年目の今年度、再び五年生の副担任を務めさせて頂くことになりました。同じ学年を二年続けて受け持たせて頂く私の今年度の抱負は、「地に足をつける」です。

がむしゃらに走ってきた昨年度から、今年度は腰を据えて、どっしりと地に足をつけながら、新たに五年生となる元気いっぴいの子どもたちと、共に学び、共に成長できる一年間を過ごさせて頂きたいと思っております。今から何をしようかなとワクワクしています。どうぞよろしくお願ひいたします。

スローライフにいきましょう

教諭 金阿彌 勉

一歩一歩

小学校教務主任 上戸 基夫

大切な出会い

教諭 草山 広子

四月。新年度がスタートする時で本来でしたら新たな気持ちでいる時期ですが、実際には厳しい社会状況が続いていて、目標値がイメージしづらくなっています。

児童・生徒の皆さんも、不安な気持ちをどこに持って行ったらいいかわからないでいることでしょうか。

悩んでもしかたがないので、「いずれにしてもこうなるだろう。」という視点で考えるようにしてみたいと思います。

今回の流れで、ネットやAIでできることへのシフトチェンジに拍車がかかることでしょうか。

逆に「ものづくり」などその人にしかできないことや実物を創り出せることの価値が一段高まると思います。

前者に任せることによってできる時間をどのように活用していくか、ライフスタイルを一人ひとりが考え変容していく時なのだと思います。まずはゆつくりいきましよう。野菜などの栽培技術が上がっているとはいえ、急

にお米が出来上がるわけではありませんよね。時間をかけるべきことにしっかり時間を確保し、スローライフで後者の部分を濃密にしていくことが、今自分が考えている当面の目標です。今年度もよろしくお願いいたします。

見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意しなさい。・・・だから、あなたは施しをするときには、偽善者たちが人からほめられようと会堂や街角でするように、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない。はっきりあなたがたに言うておく・・・施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせてはならない。あなたの施しを人目につかせないためである。

マタイによる福音書 第六章

本年は、最高学年である六年生の担任を務めることになりました。一年生の時に担任した子ども達を、再び担任することができ、喜びと大きな責任を感じています。当たり前のことが、当たり前でなくなる・・・そんな大きな変化の時にこそ、謙虚に奢らず、一歩一歩真つすぐに、自分のやるべきことを果たす一年にしていききたいと思います。



前年度は、新型コロナウイルスの影響で二週間ほど早めに三学期が終わってしまいました。この一年間は、楽しい二年生との出会いがありました。

おしゃべりの止まない鳥の大群かと思うほど賑やかな時もあれば、一心に課題に取り組む静かな時とどちらも持ち合わせている元気がいっぱいの子で二年生でした。子ども達が、泣いたり笑ったり怒ったりと体当たりだったように、私も体当たりでした。

聖ステパノ学園では、小学校の先生方だけではなく中学校の先生も、小学生だけではなく中学生も、みんなで温かく支えてくれます。朝の礼拝に行く時も、通りかかったら名前を呼んで声をかけてくれます。

校長先生のお話の中で、「学ぶことを忘れてから教師ではない」という言葉が心に残っています。この気持ちをいつも大切にし、子ども達と同じように、チャレンジを続ける自分でありたいと思います。

「みんなでひとつ」を心合わせてやり遂げることを目指した二年生も、三年生になりました。

今年度は、小学校一年生と一緒に楽しい学校生活になるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 今年度の抱負

教諭 黒澤 優

昨年の三月末に娘を出産し、早いもので一年経ちました。重いお腹をさすりながら、ロング坂を登った日々を懐かしく思い出します。お腹の中にいた娘は、学園の子どもたちにたくさん話しかけてもらいました。娘と話ができるようになったら、そのことを話そうと思います。妊娠中から学園の皆さまには、沢山のご配慮を頂き、出産までの経過が守られました。本当にありがとうございます。今年度は、短時間勤務での復帰を許して頂きました。よろしくお願い致します。

昨年度はいったん仕事から離れ、育児に専念することで自分の教員としての仕事の見つけ直す機会となりました。0歳児育児をたてるなら、二十四時間営業の店を不定期出勤する店員（夫）と年中無休で営業するような緊張感を伴ったものでした。常に睡眠不足で体力的にはつらいけれど、日を追うごとに娘への愛おしさが増していく尊い時間でした。人は、自分だけの力で成長できないものだと思わずかしながら、初めて知りました。

子どもたちの成長に心から寄り添うことが目標です。学校が子どもたちにとって、安心できる居場所であり、人生の学びを深める場所であるように尽力していきたいと思えます。

## 優しい心

庶務 小出 初美

聖ステパノ学園に着任し、早一年が過ぎ二年目のはじまりです。

未経験からスタートした清掃でしたが、目標としていた整理・整頓・清潔を常に心がけてまわりました。

「いつも、綺麗にしてくれてありがとうございます。」という言葉ももらい、子ども達の笑顔や賑やかな声は、私にいつもパワーをくれます。そして、子ども達が授業を受けている姿、外でもいっきり体を動かしている姿を見ると、この学園で優しい心が育まれているのだなあと感じていました。

そんな皆さんが、より気持ちよく学校生活を送れるように、校内を綺麗にするように日々努力していきたいと思えます。

## 新年度によせて

教諭 根田 栄子

温かい春を通り越し、暑いくらいの春風と共に二〇二〇年度がやって来ました。コロナウイルス感染拡大の影響で、始業礼拝や入学礼拝がどうなるのかも未定の状態ですが、気持ちを切替えて書いていきたいと思えます。

今年度は、久しぶりに低学年の小二副担任と小学校音楽を担当させていただくことになりました。

クラスでは、音楽の授業等で不在の時間も出てきてしまうことと思えますが、低学年ということで、一人一人の児童達をよく見て、生活面での支援を充実させていきたいです。

学習面では、一年間音楽の授業を通じ、指示や説明がよくわかるクラスだと思おうので、まずは自分でよく考え、みんなに伝えられる、知的に楽しい授業をめざします。

音楽科では、抱負の半分も実現できず終わった昨年を反省し、今年こそ少しでも時間を見つけて歌や楽器の練習を続け、演奏技術の維持・向上に取り組みます。学園長先生が折に触れ『学び続ける教師のみが教壇に立つことが許される』と教えて下さいますが、音楽科は正に、練習し続けなければ演奏技術はすぐに衰えてしまいます。常に子ども達の前に立ち、導いて行けるよう、共に学び・練習し続ける一年に行きたいと思えます。



## 原点回帰

小学校教務副主任 咲間 直人

この春卒業した中三の卒業文集に「心に残った礼拝中のお話」というコーナーがありました。読んでいて「なるほど、その話を覚えていたのか」と嬉しくなると同時に、聖書科としての使命を改めて考える機会にもなりました。率直に思うことは、どれだけのことが子ども達に伝わっていたのだろうかということです。御言葉を伝えることを軽んじたことはありませんが、それが相手にちゃんと伝わっているのかということに関しては、確信が持てる時もあるれば、疑問が残る時も少なからずあります。御言葉を受け取り、どういった答えを出すかは人それぞれです。どんな結論に達するにしろ、自分で答えを導き出して欲しいと願い、伝えてきました。そのため、あえて踏み込まずに一步引いている時もあります。しかし、そのあえてという言葉を隠れ蓑にし、伝える方法を模索することを怠っていたのではないかという思いもあります。

今年度は小学校だけでなく、中学校の聖書の授業も担当させていただきます。聖ステパノ学園に奉職してから十数年が経ち、今更にはありますが、子ども達の一つでも多くの御言葉を受け止められるように、原点に立ち返ってより良い方法を模索し、御言葉を伝え続けていきたいと思えます。

## 今年度もよろしく願います。

非常勤講師 笹尾 和子

今年度もよろしく願います。健康に気をつけて学校生活をしていきましょう。今年の二月、「平塚市出身の湯山昭先生をお迎えして」という演奏会を聴きました

・おはなしゆびさん ・バスごっこ  
・あめふりくまのこ ・おはながわらった  
どの作品も歌った事がある楽しい曲です。

「みんなわらった、一度に笑った」と聴いて聖ステパノ学園はみんなが一緒に笑顔になることを思いました。小学生と中学生と一緒に行事を体験していくのです。礼拝、音楽会、キャンプ、運動会、クリスマス祝会、マラソン大会など。

私が好きな行事は「ニコニコランチ」です。いつもは各教室でいただく給食を小一から中三までの縦割りグループでいただきます。上級生の頼りになる姿をみて成長が素晴らしいなと思ったり下級生のかわいい姿にほっとしたり。みんなの優しい笑顔を見ながら丸くなつての給食です。苦手なメニューをがんばって食べてる友だちに優しく声掛けをしている場面も有ります。友だちはいつでも温かいなと思えます。

演奏会で湯山先生のお友だちが座って聴いていました。きつと小学校のとき一緒に笑った友だちです。このときも温かいなと思いき嬉しくなりました。

## 今年度の抱負

事務次長 佐藤 雅美

サステナブルとは、ずっと続けていけるという意味を持っています。

小学校棟、体育館棟を建築して下さった、菅家工務店さんは、「もつたいたい」という言葉があるように、物を大切に、聖ステパノ学園のために必要な修理箇所を使用して、ケアする仕事を見ていてこのサステナブルという言葉に興味を持ち始めました。今の時代は、頻繁には使われないけれど、これがあったら便利など、身の回りの様々な便利なもの、お財布に優しい値段で手に入るようになり、メンテナンスするよりも、買ったほうが簡単便利だと思いがちです。でも考えてみるとそれだけ手に入れたものを廃棄しているという事にもなります。最近の環境問題を考えると、この聖ステパノ学園の自然の森や環境が、いつまでも当たり前のように見られると思ってしまうがちですが、私たちがこのまま便利な生活をしていたら、いつかは失ってしまう景色になってしまいかもありません。聖ステパノ学園の自然な環境が変わらず次の世代、また次の世代の子どもたちにも見てもらえるようにサステナブルな学校生活を発信、共有できるように努力していきたいと思えますので、今年度もどうぞよろしく願います。



今だからこそ「できる」こと

教諭 澤邊 嵩介

新型コロナウイルスによる影響で三月いっぱい休校になり、学校に子どもたちの声が響かない、なんとも淋しい日々を過ごしました。友人と連絡を取ると、「スペインの旅行予定がなくなつて暇になつてしまった」といったような嘆きの声が多く聞こえてきました。

「なんとなくネガティブな気持ちや雰囲気広がっているな」と思っているところに、クラスの子どもからこんな連絡が入りました。「友達に会えなくて寂しいけど、毎日少しずつ自宅学習のプリントやつてるよ！」

普段は、宿題をやる日があつたりやらない日があつたりする児童でしたが、休校というきっかけで自宅学習に励んでいるようです。電話で話しながら、良い気持ちで取り組んでいることを感じました。

なるほど、「できないこと」ではなくて、この状況だからこそ「できること」に目を向けて生活を送れたら今の日々が充実するのだろうな。そう思い、私も先日の休日は外出する予定が無くなった代わりに、自宅で読んでいる本を読んだり、部屋の模様替えをしてみました。

四月からの新生活も、いつもと違う日々が続くと思います。そんな時「できること」とは何か、確かめながら過ごそうと思います。

抱負

養護教諭 清水 花葉

新型コロナウイルス感染症が流行し、世界的に混乱が生じています。その影響で多くの人が不安やストレスを抱えており、私もその一人です。しかし、こんな時こそ何かできることはないかと考えます。

これまで保健指導で子どもたちに手洗いやがいの励行などの感染予防策を呼びかけてきましたが、自発的で継続的な行動につながらないこともありました。しかしこれからは今回の新型コロナウイルス感染症の予防と結び付けることで、より子どもたちの印象に残る保健指導を行うチャンスとしていきたいと思えます。大人になつても記憶に残るであろうこの大流行と一緒に、感染予防策もずっと記憶にとどめ、一生ものにしてもらいたいと願います。

さらに子どもたちの健康管理をより一層強化しつつ、指導をする立場としても自分自身の健康管理も強化するよい機会としていきたいです。運動・栄養・休養の基本を大切に、良いものや良い方法を見つけて、子どもたち更には保護者の方や教職員にも発信できるように取り組みます。

ピンチをチャンスに変えたい。新型コロナウイルス感染症の収束を日々願いながら、その中でできることを見つけて行動し、プラスにする年としていきたいです。

新年度の抱負

庶務 新庄 主来

新社会人として、思いがけず母校である聖ステパノ学園で働かせて頂ける機会を与えられ、本当に感謝しています。

しかし、正直、新しい環境に慣れるのに他人よりも時間が掛かる私にとって、この一年は不安と緊張の毎日でした。

故に、日々、自分のことだけで精一杯だった私は、周りのことを気に掛ける余裕など全くありませんでした。

聖書に「それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようになさい。」(マタイの福音書七章十二節)と記されています。

この御言葉は、イエス様の戒めの中でも、黄金律と呼ばれるほど大事なものです。

しかし、この御言葉の通り、常に他の人の事を覚えながら行動したいと思いつつも、それが出来ていなかったことを反省し、これからは、この御言葉を少しでも守り行なえるようにイエス様に祈りつつ、歩んで参りたいと思います。

新年度も何卒よろしくお願い申し上げます。



## 新年度の抱負

教諭 高桑 恵

三月から新型コロナウイルスの影響で休校が長引き、思うように生活できない日々が続いています。子ども達はお友達と遊ぶこともできず、ストレスが溜まっていることでしょう。当り前だった事ができなくなつて、この先の見通しも立たず、不安は増すばかりです。毎日、暗いニュースばかり見ていると、気持ちも暗くなりがちなので、なるべくポジティブな方向に考える癖をつけるように心掛けています。今、自分ができることを一つひとつこなしていく事で不安は少し和らぐように思います。子ども達が登校できるようになったら、まずは気持ちに寄り添い、不安を少しでも軽減できるように配慮していきたいと思えます。

今年度は、四年生の担任をさせて頂くことになりました。一年生の時に担任していた子ども達なので、みんなの成長を間近で見られることが嬉しいです。みんなで協力し合い、楽しいクラスになるように精一杯努めて参ります。子ども達の気持ちに寄り添い、子ども達が主体的に動けるようなクラスを目指してがんばります。保護者の皆様には、ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

## 大切な時期を一緒に過ごす

教諭 高橋 謙二

今年度は小学三年生の担任を受け持つことになりました。どうぞよろしくお願い致します。久しぶりに予想もしていなかった人事異動で、三月後半に担任が知らされた時は驚きました。小学校の低・中学年の担任はもうないと思っていたので、気になっていた小学三年生と一年間生活ができる喜びは格別ですが不安もあります。ただ、新中学二年生を小学四年の時に担任をさせて頂いた時に、とても良い思い出があるので楽しみでもあります。一昨年中学に戻り、子ども達と一緒に生活を送っていると、小学校時代の学校生活、そして家庭での生活などあたりまえの事が、どれほど将来に向けて大切なのか強く感じられます。机上の教科学習は、勿論ですが、友だちや先生方や保護者の方や様々な人との関わりの中で、人が人として、社会の中でどのように生き、関わっていくのかを感じ、考え学ぶとても大切な時期であります。子どもは大人と違ってとても素直で正直です。ですから自分が失敗したら反省しますし、間違ったら謝ることもできます。その基礎をつくる時期が中学年です。このことを肝に据え、私は誠実に子ども達と向き合い、仕事を全うしていきます。

## 新年度の抱負

中学校教務主任 田中 圭史

今年度は中学三年生を担当させて頂いたことになりました。彼らの最後の一年が充実したものとなるように、そして来年しっかりと踏み出していかれるようにサポートしていきたいと思えます。

「理科」という教科を通して子どもたちの目を外に向かせ、体験と学びを結び付けていくことを念頭において一緒に学んでいきたいと思えます。インターネットが普及して多くの情報を手軽に得ることができますが、実際には溢れる情報を取捨選択するところから始まり、それをもとに思考し、判断・表現できるかということが課題だと感じています。そのためにも基礎基本を振り返り、考える土台を作っていく、その先に思考力・判断力・表現力の充実を図っていききたいと思えます。

また、昨今の報道を見ると、新型コロナウイルスによる感染症の拡大防止のために自身で判断し、適切に行動できる力をつけていくことが肝要であると痛感しています。子どもたちが用意された答えを見つければいいから、自分自身で答えを探し掘んでいく力をつけて欲しいと願います。

今年度の目標が達成できるように一つひとつの課題に丁寧に向き合っていきたいと思えます。今年もよろしく申し上げます。

## 今年の抱負

校務 飛田 裕二

月日が経つのは、早いものと感じるこの頃です。卒業、入学は毎年繰り返し行われていますが、その都度思うことがあります。自分の時の事が。早く大人になりたいと思つていたあの頃ですが、大人になると面倒な事が多くて、子どもの方がどんなに良かったかと、勉強して友達と遊んでいる方がよっぽどいいかと。だけど時間を戻す事が出来ません。だから、今を大切に過ごして欲しいのです。これから、社会に出れば色々な事があります。一杯体験をして、その中から良い事、悪い事を判断して大人になっていつて欲しいです。今年も、皆さんに元氣よくあいさつをしていきますので、宜しくお願い致します。子ども達に素直な心をいつも教えてもらつています。元氣な笑顔で、毎朝会うのが、いつも楽しく待っています。謙虚を、忘れずに驕らず、誰に対しても優しく接していこうと思います。門の所と飼育小屋辺りに、桜の木を植樹して頂きました。これから順調に育つて、綺麗な桜の花を咲かせて見せてもらいたいです。「幸せの数を数えたら、想い出なんかにかないで、またひとつ明日を探しに行こう、あの時流した涙のわけを、君がいなくなつてから気付いたよ、ごめんね。君と二人で歩く桜色した一本道」。しっかりと育てるからね。

## 二〇二〇年度の抱負

養護教諭 土橋 久美子

昨年度は、聖ステパノ学園で過ごす一年目、個人的には数年ぶりに保健室で子ども達に関わるといふことで楽しみ半分・緊張半分といった気持ちで迎えました。人見知りな上にすぐに緊張する性質の私は、好奇心いっぱい話しかけてくれる子ども達に随分助けられました。

しかし、迎えた年度末は新型コロナウイルスの感染予防のために休校となつてしまいました。普段のステパノ学園の保健室はそれほど来室者は多くなく、みんな頑張つて教室で過ごしていますが、休み時間になればにぎやかな子ども達の声が保健室にも聞こえてきます。その声が聞こえない保健室はとても寂しく、早く子ども達の声が聞きたいと思いつながら年度末を過ごしています。

このような非日常の状況では、日常の基本的なことをしっかりとできていることが心身の健康を守るためには大切であると感じます。休校前、子ども達と目新しい事ではなく、何度も繰り返し返してきた「手洗いの大切さ」「咳エチケットを守ること」「人の集まる場所を避けること」を確認しました。健康を守る基本的なことは時間とともに大きく変わるものばかりではありません。新年度も基本を大切に、子ども達と過ごしていきたいと思つています。

## 臨機応変

教諭 中村 弘之

新型コロナウイルスによる影響で、世界中が混乱しているその最中に、十才ほど年上の知人からメールが来ました。

「年齢的にも重症化の恐れがあるので、すべての外出を控えています。ボランティアも、バイオリンづくりもすべてキャンセルしています。家の中でできることをしています。そうしたら、なんとやることが多い事か。おかげでみるみるうちに家の中ですつきりし、暮らしやすくなりました。」

さすが、私が「人生を楽しむ達人」と感心していた方です。なんでも手作りし、交友を楽しんでいました。世の中が、「〇〇ができない。」「〇〇はどうしたらいいのか。」と対応に困っている中で飄々と暮らしていたのです。

「ものごとそのもの」に価値はありません。良いとか悪いとかは人間が勝手に決めていきます。価値観を神様に置くことができれば、人間はそれを受け止めるだけです。

「臨機応変」とはそのようなことでしよう。過去に縛られ、体験したことを常識とし、変化していくことや、突発的な事態に対応できない自分を見直し、どんな事態が訪れても、受け止めて変わり続けたいものです。

ハプニングを楽しみ、一つ一つの事をていねいにしていきたいと思つています。

教諭 難波 寛

今は三月、この原稿を書いています。安倍総理からの突然の学校休校要請に驚いたのは、先週の事です。聖ステパノ学園も休校せざるを得ない状況になってしまいました。一方、日本全体も混乱している様です。スーパートのイレットパーパー、マスクなどは完売状態です。こんな時、私が思い出すのは東日本大震災の時です。この時もお米とガソリンが手に入らず困りました。毎日学校に行くなど何気ない生活を送ることがいかに尊いものか、こんなときに実感します。

こういった時、私はこんな風に思うことにしています。

「今、できることをしよう。」

今の自分にできることはそう多くはありません。でも、一つ一つ今できることを考え、実行する事を心がけています。もし、毎日心配で仕方がないという人がいたら、試してみてください。

今後、日本全体がどのようになるかはわかりません。聖ステパノ学園も例年通りとはいえない事もあるかもしれません。そんな時、私は考えついた事を実行する勇気を持って臨んでいきたいと思っています。

教諭 西海 多恵子

昨年度末は一カ月間丸々休校となり、卒業を控えた中学三年生は、予定のすべてを中止せざるを得ない状況となってしまいました。そんな中でも、彼らが残した言葉は、私たちに大きな希望を与えてくれるものでした。

「この学校で自分の世界が広がった」「この学校で『他人のために尽くす』ことを学んだ」「人に優しくしてもらったり、人に優しく出来たりしたことがよかった」「委員会の仕事で初めて小動物をかわいがることができた」：そして多くの生徒が「自分がいかに成長したか」ということと、「周囲の人への感謝」を、自分の言葉で書いてくれました。私たちの目指す教育が、生徒たちの心に具現化していることを嬉しく思います。

「自分を好きになって欲しい」「自己肯定感を持つて欲しい」「自分の手で将来を創ってほしい」「言葉でいうだけでは実現しません。あらゆる場面で、実際の体験、学びの機会を工夫して、一人ひとりを理解し、寄り添い、ヒントを与え、励まして、彼らが自分で体感する「成長」の場となる聖ステパノ学園の毎日を、今年も全力で創っていきたいと思います。予測のつかない変化に冷静に対応しつつ、変わらないもの、大切にすべき本質を守っていきましょう。

教諭 二挺木 健太

昨年、競泳選手の池江璃花子さんが白血病となってしまうことは全世界でも大きな衝撃となりました。そんな中でも「神様は乗り越えられない壁は与えない、自分に乗り越えられない壁はない」と前向きなコメントをしていました。現在は泳げるくらいまで回復しているとのことですが、池江選手も「思っていたより、何十倍、何百倍、何千倍しんどい」と言っていました。そんな辛い時にも気持ち強く持って、前向きに闘病生活を送っていたのだと思います。

現在は新型コロナウイルスが世界的に大流行し、様々な困難な壁に直面しています。そんな中で私たちも後ろ向きな気持ちになってしまいがちですが、新型コロナウイルスが終息することを願い、その日が来ることを信じて、今できることを前向きに取り組んでいこうと思います。また、日々の生活の中でも様々な壁に直面した時にも前向きに取り組んでいこうと思います。



## 習得と復習

非常勤講師 能條 貴大

今更ながら、二〇一九年は自分にとって電子書籍元年でした。スマートフォンやタブレット端末などの携帯機のデータ容量はすさまじく多く、写真を保存し、映画や音楽をダウンロードしてもまだまだ余裕があります。電話やメール、インターネットといった基本操作を除けば、ボイスレコーダーやメモ代わり程度にしか使用していない私には、手に余るほどの高性能です。

ところで、私は仕事の移動時間が長く、その時間で仕事内容を整理することがあります。そのため、資料を持ち歩くことが多々あるのですが、それらをカバンに詰め込むとかなりの量になり、持ち運ぶのが非常に大変です。それを解消するため、初めて電子書籍を使ってみました。紙ではない本に最初は抵抗がありました。紙では無いとかなかなか便利で、単語の検索や使える文章の保存、メモの作成と、必要な機能がしっかり揃っています。インターネットと併用することで、以前よりも知識を習得し、復習することが身近になりました。音楽に限ったことではありませんが、見聞きした情報、知識は書くなり話すなり復習することで、自分のものにすることができると思います。二〇二〇年は携帯端末の便利な機能を存分に使用し、習得と復習に励むよう心掛けて生活しようと思います。

## 学校には子ども達が

小学校教頭 長谷川 誠子

昨年度はまとめの時期に一斉休業となり、子ども達のいない約一ヶ月。通常であれば子ども達の元気な姿と賑やかな声が溢れている学校が、ひっそりとして何とも寂しい状態でした。学校に子ども達がいるのが当たり前というそんな平穏な日々がいかにもありがたいかということ強く実感しました。

子ども達も長い休みが続き、学校再開を待ち遠しく思っているという声をあちらこちらから耳にし、学校が子ども達にとってもいかに大切な場所になっているのかも改めて考えさせられました。

世界には学ぶ場所がない、また、学びたくても学校に行くことができない状況の中にも、子ども達がいることは承知していましたが、今回の事を通して、更に、当たり前前に送っていた日常が本当にかげがえのないものであることを再確認しました。

新年度は、六年生の副担任となりました。子ども達にとって小学校生活最後の一年、とても大事な時間です。一日一日をしつかりと積み重ね、子ども達が大きく成長できる一年になるよう力を尽くしていきたいと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。

## 春

非常勤講師 伴 茉莉子

突然のお休みから一ヶ月、日常生活の細かな事にも何かと工夫と決断が必要な日々が続いています。

私はもう悲しむまい  
アケビも藤も榎木（ツキノキ）も  
みんな忘れずに芽を吹き出した朝  
恵みの春だもの

これは「春」という合唱曲の歌詞の一節です。以前、取り組まなければならぬ事が普段より積みあがってしまった時にこの曲を聴き、励まされました。今まさにふさわしい一曲と思ひ、近頃改めて聴いています。

自宅学習期間に入り、昼間でも静かな校舎で途中になってしまった作品を見ていると寂しくなり、冬でも春でもないようなこの時間が終わらないような気さえしてきました。しかしこの歌詞のように、周囲の草木は忘れずに芽吹き始め、春らしい華やかさが見えてきました。

今年も聖ステパノ学園で教育の一端を預かっていただくことになりました。一学期は書画展覧会へ向けた書道の授業が中心となります。春を迎えた安堵と喜びを思いきり表現できるように、今年度も気持ちに寄り添う指導を心がけてまいります。

一年間よろしくお願ひ致します。

## 今年度の抱負

学校図書館司書 平野 朋子

ご入学、ご進級おめでとうございます。聖ステパノ学園の図書室で司書をさせていただきます。ただいている平野です。昨年度から体育館棟二階の図書室が、小中学校共通の図書室になりました。

小学校の教室からも離れているし、中学校校舎からは七曲りを使わなければ来ることが出来ない：という不安はありましたが、始まってみると自分のお気に入りの本を求めて毎日のように通って来る児童や、音楽や体育の授業のために体育館棟に来る時に図書室にも顔を出してくれる生徒たちの利用のおかげで、昨年度は二月までの開館だったにも関わらず、貸出冊数は以前よりも増加しました。図書委員のみなさん、ありがとうございます。

今年度は、より教科に沿った資料を提供できるようにすること、子ども達や教職員の知的好奇心を刺激することを目標に努力していきたいと思えます。みんなの学校図書館が身近に感じられるように、寄ってみてよかったです。思っていただけのように、みなさんの声を聞きながら活動していきたいと思えます。今年度も、どうぞよろしくお願い致します。

## 「春を迎えて」

庶務 松崎 由香

新年度を迎える季節になりました。事務の仕事は、一年を通してサイクルが決まっています。年数を重ねていくと、ある程度通常業務の予測が出来るようになり、事前に出来る事は、早めに進めて行きます。その時々で行う業務もあるので、臨機応変に対応していける様に心掛けています。特にこの春は、「いつ何が起こるか分からない」と改めて実感しました。

もう一つ大事な仕事として、来客対応があります。来校されて、最初に立ち寄る場所が事務の窓口です。新しい校舎となつて、来客の方々から、「木の香りがする素敵な校舎ですね」「ステンドグラス素敵ですね」とお褒めの言葉を頂くことがあります。「ありがとうございます」とつい自分の事の様にうれしく思い、お礼をお伝えしています。そんな外からの声が直接聞けることも、職種ならではの思いです。

また新しい年の始まりです。初心を忘れずに取り組んでいきたいと思えます。今年もステパノで皆さんと過ごせる事に感謝しています。

## 復職にあたって

教諭 松村 はるか

まささらな新任の頃、ある研修会で講師の先生が「本当の意味で生徒の信頼を得たければ、授業で勝負することだ」とおっしゃったことを、教員生活の中で幾度となく思い出します。この言葉は私を励ましもし、また苦しめても来ました。

これは、どの年齢の子ども達を教えるにも共通することですが、最近になってようやく確かな実感としてこのことが理解できるようになったように思います。

それは、教材や教科そのものの本質についての興味関心を持ち続けることであり、また私自身が向学心を持ち続けることに他なりません。教育とは「技術」であると同時に「心」であると感じます。

久しぶりに学園に戻ってまいりました。小学校の英語は変革の時を迎えています。「なぜ英語を学ぶの？」という、子ども達の素朴で本質を突いた声が聞こえてきそうな気がして、胸がわくわくします。私を待っているのは未知の世界です。

「人気のある教員は多いが、信頼される教員は少ない。」二十年近く前の講師の先生の言葉をもう一度しっかりと心に刻み、これから出会う子ども達とともに成長していくことができるよう、日々新たに精進してまいります。



## ロクロの重み

陶芸部顧問 宮本 光春

陶芸部の活動が始まって随分と時が流れましたが、土と格闘する子ども達の姿に変わりはありません。陶芸は誰にでもできますが奥深い面もあり、満足のいく形に作り上げても焼成までの工程の中で歪んでしまうようなケースがあります。その原因の一つが偏肉です。ロクロを回転させながら作り込む過程で作品の中心とロクロの芯がズレたまま仕上げると外輪から近い面は薄くなり反対側はその分厚くなります。形が整い使いやすい品を作るにはその条件を整える必要があるのです。

手ロクロは鉄製で重心が低く作業台に置くと根付いたようにガッシリと構えます。土をどこに置いてブレずに正しく回転して作り手の動きを支えます。何か人を育てることと共通点があるように思います。聖ステパノ学園にはこの上ない自然環境と人間愛に満ちた熱意ある先生方が子ども達の成長を支え、見守っています。話の内容までは分かりませんが子どもと個々に対応されている先生の姿をよく目にします。フランクに向き合うことで心の垣根を取り払ったり、迷う心に寄り添い導かれている、二人の佇む姿からそう感じています。私の学園での活動はその実も含め微細なものです。ロクロの働きを意識する中で子ども達と接していきたいと思えます。

## 成長する力

スクールカウンセラー 山口 滋美

聖ステパノ学園にお世話になって六年目を迎えました。当時の小学校一年生が、今年六年生になります。泣くにも笑うにも全力投球だった姿が、昨日のように思い出されます。そして小学四年生だった子ども達は、なんと中学三年生です。絵に描いたようなギャングエイジを謳歌したあと、毎年、毎年、ひと皮ずつ剥けていく様子を目の当たりにしてきました。今では冷静な判断力と責任ある行動力を備えた立派な最高学年です。

はじめはごつごつと、その粗削りさばかりが目立っていた原石が、時には鋭いグラインダー、時には柔らかい布で磨かれキラキラと光り出す様子に、子どもが本来持つ「成長する力」を感じます。と共に、その時々の子どもの抱える課題や変化について、相談にきてくださった保護者の方々の真摯な気持ちこそが成長を支えた原動力だと気づかれます。合わせて、常に子ども視線を忘れず、一人一人が日々織りなす行動の意味を考え、心に響く関わりを模索する先生方の教育力が、成長を導き出していることも明らかです。

今年も、このような素敵な保護者の方々のお話を伺えること、先生方と一緒に子どものお話ができることに深く感謝します。どうぞよろしくお願い致します。

## 二十二世紀を生きるかもしれない

教諭 米原 佑樹

「二十二世紀を生きるかもしれないんだね。」昨年度、中学三年生との授業中にそんな話になりました。二十二世紀まで残り八十年。その時彼らは九十五歳。健康に気を遣えば、目指せない数字ではありません。今年度の小学一年生なら八十六歳。より現実的に響いてきます。

二十二世紀を生きるかもしれない子どもたちを育てている。なんだかSFのような話ですが、それが現実になるのだと思うと少し襟を正されます。枠にはめるような教え方ではなく、自分たちで考えて行動していくことをサポートしたい。そんな思いを抱かずにはいられません。

ちなみに百年前の一九二〇年頃は米騒動や関東大震災に世界恐慌と、なかなか大変な時代でした。しかし一方で、世界の平和を願う国際連盟の発足や普通選挙法の成立、国内初の私立大学の発足など、今につながる社会の礎が作られたのもこの頃です。

いま、理不尽なことがあっても、先行きがわからなくても、その中で積み重ねていく何か次の世紀につながっていく。少し大風呂敷かもしれませんが、いつもそうした広い視野と大きな想いを忘れず、この二〇二〇年度も、励んでいきたいと思えます。

## 今年度の抱負

中学校教務副主任 和田 好江

ご入学・ご進級おめでとうございます。初めましての子ども達、保護者の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。二〇二〇年は世界中で不安を感じる状況ですが、こういった時こそ冷静に、地道に、すべきことをしっかりと務めることを基本に、子ども達の健康に気を配り、子ども達が充実した学校生活を送れるよう支援していきたいです。

今年度は中学一年の学年主任を担当させていただくことになりました。中学校での主任としての学級経営は初めてで、正直とても緊張しています。思えば初めて教育実習したのは中学一年生のクラスでした。実務の中一は初めてですが、中一の生徒達の期待と不安を支え、自立し、自治的な生活を送れるクラスになってもらいたいと願っています。周りの先生方にご協力いただきながら、また、上級生との関わりの中で、生き生きと活動できる中学生になって欲しいと思います。

また、小中の体育専科の務めを任せていただきます。感染症予防の三つの柱には「感染源対策」「感染経路対策」「体の抵抗力を上げる」があります。運動を通じて心身共に健康な体づくり、保健でも予防できる知識と生活力、そういった体育科としての責任を果たせるよう、精一杯やらせていただきます。

一年間、どうぞよろしくお願いいたします。



「信 仰」



「希 望」



「 愛 」

ユリをモチーフにした「愛」の  
ステンドグラスが完成しました。

信仰 希望 愛



3月26日贈呈式



## 春のアルバム

校門とガーデンに桜の木が  
植えられました。

群馬銀行様、菅家工務店様、  
花輪正浩様からの寄贈です。



やわらかな春風を頬に感じる季節になり、S  
Aも新たな年度がスタートしました。新役員か  
ら皆様に一言ご挨拶申し上げます。

#### 【中学校代表】

我が家の子どもたちはステパノでなければ  
ここまで伸びなかった、と日々感謝です。お礼  
の気持ちを込めて一年間がんばります。☆大磯  
町在住☆整理収納アドバイザー、本の編集など  
をしています。

#### 【小学校代表】

校門をくぐるとワクワクする学園が大好き  
です。一年間宜しくお願いします。☆二宮町在  
住☆音楽とスポーツ観戦が大好きです。

#### 【小学校代表】

先生方や職員の皆さま、SAの皆さま、日々  
ありがとうございます。毎日を大切に、楽しく、  
を忘れずに微力ながら一年間務めさせていた  
できます。☆平塚市在住☆ストレスが溜まった  
ら思い切り風呂掃除↓お笑いを見てリフレッ  
シュ！

#### 【書記】

ステパノ学園の制服を着て校章に赤いルー  
プタイ姿を見ると、毎朝嬉しくなります。本当  
にありがとうございます。☆小田原市在住☆ミ

ュージカルを観ることが好きです。

#### 【書記】

毎日、息子に笑顔を下さる学園への感謝を忘  
れず、皆様のお役に立てるよう務めさせていた  
できます。☆横浜市在住☆料理が趣味。季節ご  
とに味噌や梅干作りを楽しんでいます。

#### 【書記】

日頃より子供の学園生活をサポートして下  
さっている皆様方への感謝の気持ちを込めて、  
微力ながら一年間務めさせて頂きたいと思っ  
ます。☆二宮町在住☆子供とピアノの連弾に挑  
戦中です。

#### 【書記】

微力ながら頑張らせていただきます。☆大磯  
町在住☆日々息子に広めてもらう世界を楽し  
んでいます。

#### 【会計】

毎日、楽しく通わせて頂いている学校に感謝  
の気持ちを込めて微力ながら一年間頑張りま  
す！☆平塚市在住☆今年英会話の勉強頑張  
ります。

#### 【会計】

ステパノ学園に関わる全ての皆様に感謝し  
ています。微力ながら頑張りたいと思います。  
☆平塚市在住☆ヨガで心とからだを整え中  
です。

「SAの部屋」は本年度二人でスタートしま  
した。

一年間、どうぞよろしく申し上げます

※学園注 名前は伏せさせて頂いております。

#### 【着任者の紹介】

(事務長) 中林 三平  
(教諭) 松村 はるか

#### 【編集後記】

人生初の編集作業に戸惑うばかりの毎日  
ですが、素人目線、読者目線を忘れずに、分か  
り易く学園の様子をお伝えできるように頑張り  
ます。(え)

学園の様子や子どもたちの様子を様々な視  
点から紹介して、読者の皆様に楽しんでいた  
だけの誌面作りに尽力いたします。(こ)

新年度が始まりました。新企画も考えなが  
ら、新たな気持ちで学園の元気な姿をお伝え  
できるように頑張りたいと思います。(き)

今年度も、学園の様子や子どもたちの姿を  
知って頂くと同時に、教職員が互いに学びあ  
う紙面を充実させたいと思います。(た)

ステパノだより編集は、新メンバーにバト  
ンタッチ。たくさんさんの「学び」をありがと  
うございました。新年度4月号です。教職員全  
員の本年度の抱負をお読みください。(ひ)



代表者 学園長 小川 正夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-611298

FAX 0463-6119739

http://www.stephen-oiso.ed.jp

二〇二〇年 四月 十日 (金) 発行 第242号